「問題」「解答・解答例等」「出題の意図」

選抜区分	2026 年度　（選抜区分：一般選抜　後期日程） 文学部人間関係学科　（科目名：集団討論）

１.出題の背景・求める能力

後期日程の試験科目である集団討論は、与えられた討論テーマに基づいた数人の受験生による討論形式の入試である。テーマを設定した討論場面において、自分自身の見解をテーマに沿って論理的・独創的に表現できる能力、情報提供や意見調整など円滑なコミュニケーションを進める能力、集団の中で適切なかたちでリーダーシップを発揮していける能力などが求められる。

２．解説

今年度の集団討論は、1 試験室につき受験生 6 名を 1 グループとして 3 つの試験室で同時に進行し、それを 3 回繰り返す形で進めた。

同一時間帯で実施されるグループには共通の討論テーマが与えられ、時間帯が異なる場合には別のテーマが設定された。限られた時間のなかで、討論テーマに基づいて、それぞれの知識や情報、意見、疑問などを出し合いながら共有し、討論すべき論点を定め、集団で深めていくことが期待される。

以下に各回のテーマごとに解説する。

【集団討論 1 回目】

解説：外国人旅行者数の増加に伴い、過度の混雑やマナー違反による地域住民の生活への影響が指摘されており、様々な対策が行われる現状にある。このような対策を行うことに伴うメリットやデメリットについて討論してもらった。

具体的な対策に対してのメリット・デメリットについての話題に留まり、議論が深まるグループは少なかった。表現力・語彙力・論理力を駆使したり、メタ的な視点から討論課題のフレームを転換したりすることで議論を活性化させることも必要だと思われる。中には、そのような見地から物事を概観し、発言できている受験生もいた。

【集団討論 2 回目】

解説：新規学卒就職者の就職後 3 年以内の離職率が 3 割強と、高いパーセンテージを示している時代の中で、大学で何を学んでいくのかについて討論してもらった。

受験生にとっては論じやすいトピックのようで、自分のことも踏まえて話せていた。グラフとテーマとを合わせて討論できているグループや離職自体の是非を討論できているグループもあった。ただ、全体的にはバイトやサークルでの人間関係の学びについての議論が多く、大学の授業やゼミでの学びの話がほとんどなかった。受験に際して調べたであろう大学での具体的な学びをベースとし、自分自身が大学で何を学びたいかを軸にすることで、より豊かな討論になったと思われる。

【集団討論 3 回目】

解説：日本における書店の減少の状況下での、活字文化の振興や書店のあり方について討論してもらった。

書店減少のデメリットのみならず、その背景にあるインターネットや SNS の影響について話されるとともに、活字文化を普及させるためにインフルエンサーを活用する意見などもきかれた。図書館の利用のあり方についても議論された。ただ、活字文化そのものの議論というよりも、教育に関する話が多かった。

****

- **受験生への情報提供**

普段の生活や社会の動きの中から課題や問題点をみつけ、それを言葉にする練習や、集めた情報を整理したりする練習が集団討論に役立つと思います。また、それを友達と話し合ってみるのも良いと思います。自分の意見を持つ、他者とやりとりすることで、多様な視点を理解し獲得することや、問題の捉え方について深めていくことが求められます。

知識や情報の有無や量よりも、限られた時間、与えられたテーマに即して、主体的・対話的で深い学びがなされるか、また人間関係を取り巻く事柄への探求や問題意識が発揮されるかどうかが大切です。

テーマについて討論することを求めています。（特に指示されていない場合）時間内でグループとして結論を導き出すことは必ずしも求めていません。また司会や進行を気にするあまり、おたがいに十分に意見を出し合う時間がとれないグループもあったりします。

進め方やまとめ方をあまり気にせず、それぞれの考えを出しあいながら自由で活発な討論ができればと思います。